

**主旨** 長い間着るものについて深い関心をもち、このことについて研究をつづけているうちに、一層人間の精巧さに打たれ、魅せられました。

人間ありのままの姿ではなく、より美しく、より役立つものとして、育つことが人の生きる道程だと考えるようになり、からだの美・機能・機構等、人智を尽くしても造ることは不可能であるにもかかわらず、持って生まれた各自自分のからだをより美しく、健康に磨いてゆく、これは各自のつとめであるにもかかわらず、日々の生活の中に無関心や油断が多すぎるように思います。時間の回転と共に、人間もからだも可動しております。これがよいということはないでしょう。けれども、からだで体得して作り上げる健康と美・行動、それは新しい教育を受けた女性の社会的行動の出発として考えてみたいと思いました。(アメリカのカーター大統領は来日中といえども、家庭生活をくずそうとはなさいませんでした。家族と共に政治も育成されてゆく日本であるためには、家庭もまた公のものとして、人間のものとして生きてゆく家庭作り、それを若い方々に期待せずにははいられません)

**方法** (1) 肢体の基本的行動について、スライド作成  
(2) 機能的行動の料とまで考えられる身体機能に合わせるための被服、それらを基本とした衣服を製作・着装し、スライド作成